

(別紙の2)

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を反映させた「人と人が肩のふれあうぬくもり作り、自然にありのままに地域の一員でありつづけること」をグループホームの理念とし、管理者・職員は把握・共有し援助活動を行っている。	各階ごとに職員全員で話し合った理念を常に意識し毎日のケアに取り組んでいる。新規の職員には理念について充分説明し、経験のある職員と一緒にケアを行ない、実際に支援方法を見ることにより更に理解を深める体制をとっている。来訪者にもわかりやすく玄関の入口に掲示している。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員としてあり続けるために、毎日の日課である散歩に出かけ、隣近所の方と気軽に挨拶を交わせる機会を多くもてるよう努めている。地域の運動会へ参加したり、積極的にボランティアの受入を行い交流している。又、隣接老健主催の地域開放行事“夏祭り”に作品を展示し全員で参加している。	法人として区費を納入し地域の行事等に参加している。毎年運動会には職員が参加し、利用者は応援したり、秋の文化芸能祭では歌、踊り、展示品など身近な人の発表を楽しんでいる。また、地元の小学生の来訪が年2回ほどあり、歌や楽器の演奏を聞いたり、折り紙や粘土のネックレスのプレゼントに対し、利用者からは手縫いの雑巾を渡すなど交流している。歌、ハーモニカ、アコーディオンなどのボランティアの来訪も定期的であり利用者の張り合いのある生活につながっている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年に一回の老健主催の夏祭り実施時に、入所者の作品展示・外出行事の写真展示をし、日々のケアについて理解して頂ける様取り組んでいる。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	1回/2ヶ月実施。入居者の状況を説明し、日々実践してきたケアを報告させて頂いています。また、地域の方々より頂いた貴重な意見は、会議録を通し全スタッフへ周知し今後のサービス向上へ活かしている。	概ね2カ月に1回開催し、1・2階の家族、区長、民生委員、地域包括支援センター職員、市介護保険課職員等が出席し運営状況の報告や毎回テーマ(食中毒予防、ヒートショックなど)に沿って看護師等の職員から情報提供し対策を話し合っている。活発に意見が出され、最近では区長からの提案でホームの行事予定を早めに区に伝えることで参加者をより増やすような取り組みについて検討している。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議で、入居者の状況・日々実践してきたケアの成果を報告し、利用者の状況に応じて連絡・相談を行っている。	法人内の事業所が地域包括支援センターの委託を市から受けており、日頃から利用者の状況などの情報交換や相談をしている。介護認定更新申請など家族の依頼により代行し、認定調査時は同席し利用者の生活状況を伝えている。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関施錠に関しては、9時から17時は開放している。センサーマットを設置し、日勤者が責任を持って施錠管理している。スタッフ会議開催時に、日々のケアの中で具体的にどのようなことが身体拘束になるか？を話し合い防止に努めている。	運営規定や契約書に拘束をしないケアについての記載があり、契約時に本人や家族に説明している。同業者の研修会に2カ月に1回代表者が参加し、伝達研修で職員全員が理解を深め共有している。常に職員間でケア方法について話し合うようにし、ケアの振り返りにより防止に努めている。

医療法人博人会桜グループホーム・1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や認知症研修で学び、スタッフ会議での伝達研修を行い全スタッフへ周知し、日々のケアの中で小さな内出血や傷なども含め原因を考えたり、予防に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度の資料を基に勉強会を行い、必要な支援ができるよう話し合いを行い活用と支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前面接時、入所手続きの際、利用者や家族の希望や不安を聞き、時間を掛けて説明した上で同意書を頂いている。又、解約時も面談を行い十分に話し合えるように対応している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回あんしん相談員訪問時、入居者からの要望を聴取して頂いている。スタッフは日々ケアの中で小さな意見・要望・苦情を聞き逃さないよう受け止め、その内容をスタッフ全員で共有し改善する等の対応をしている。家族の面会時・家族会の際に要望や意見を聴取している。玄関スペースへ要望箱を設置し苦情・不満を表せる機会を設けている。	ほとんどの利用者が自分の意見や思いを表出できる。自ら伝えることが難しい利用者には寄り添い、1対1の時間を充分とって話を聴くようにしている。家族の来訪は週1回～2カ月に1回あり、その際に利用者の状況を伝え意見・要望を聞いている。家族と職員の茶話会、利用者と家族との昼食会など、家族同士の情報交換や意見・要望を聞く機会を多く持ち、家族の不安軽減に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々業務の中での問題点などを解決できるようスタッフ会議を開き、全スタッフの意見や提案を聴取するとともに、管理者との年2回の面接を行い、運営や業務に反映できるよう努めている。	月に1～2回ユニットごと、年2回は合同でスタッフ会議を開催している。業務の見直し、利用者のケアや介護計画について自由に意見を出し合っており、今年度ユニット間の交流が充実するよう取り組んでいる。年2回管理者との面接があり働く中での意向や希望を伝え相談している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員無理の無い勤務体制を築き、十分な休息を取れるよう調整した上で、各々の向上心、仕事に対する努力・実績を常に把握し、適宜な評価(定期昇給・賞与)が得られるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを	ISOでの定期的な研修に参加し、また、法人外の研修も積極的に参加出来るよう、勤務表で調整し、多くのスタッフへのスキルアップに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	1回/2ヶ月。善光寺グループホームねっと会議へ参加させていただき、相互の情報交換を行いより良い情報は、スタッフ会議で意見交換しサービスの向上への取り組みを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人とゆっくり時間を掛け、コミュニケーションを取りながら、発した言葉だけではなく、表情・動作等の観察をしながらアセスメントするよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所の申し込み、事前面接時、契約時に家族の要望・不安・思いをよく聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族と充分検討し、必要があれば福祉用具購入の支援や、他施設の情報を開示している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	常に声掛けをし、一緒に行動し、過ごしていく中で、入居者各々のペースを尊重し、喜怒哀楽を共感できるような関係作りを心掛けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	常に家族との連携を密に行い、家族とスタッフの茶話会を開催(年2回)。また、面会時等に近況を知らせ、家族の状況等も踏まえ一緒に考え、支えて共有出来るよう心掛けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会には制限が無いので、随時受入している。近所の友人や親戚・兄弟等面会に来ている。家族の協力を得ながら馴染みの場所等の外出・外泊の支援をしている。	家族や親戚の来訪があり、お盆など家族と墓参りや外出、外泊をしたり、外食や買い物を楽しむ利用者もいる。手作り紙芝居のボランティアが定期的に訪れ利用者の馴染みの存在になっている。利用者の希望により電話や手紙の支援もしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフが中心となり、会話のきっかけ作りをしたり、一緒に会話に加わっている。また、レクリエーション活動や個々の特技・趣味的活動等で活躍できる場面作りを支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	隣接老健へ入所されたり、入院された場合は、面会に行ったり、家族とお話している。サービス利用が終了しても、気軽に立ち寄って相談できる関係作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前の生活暦を基に、日々の生活の中でその人らしい暮らしや望む暮らしについて寄り添えるよう取り組んでいる。	利用者一人ひとりに合わせ、その時に応じて声掛けしたり、フロアから少し離れたソファで話すなど意向を伝えやすいような支援を工夫している。職員が横にいて安心して落ちついた環境で過ごせるようにと支援している。利用者が話した言葉は大切に、きちんと記録に残し職員間で共有している。また家族からの言葉から利用者の意向を察し職員間で話し合いケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前の事前面接時、契約時に生活歴や生活環境・状態経過等の情報を収集し、今後の生活にどのように取り入れていけるのか検討している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録を中心に、日常生活の観察を実施し、申し送りを継続的に行い、日々の状況を把握しながら出来る力を発揮できるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人・家族からの情報・希望・意向を大切に、全スタッフで日々のケアに取り入れて行ける様、カンファレンス・モニタリングを行っている。	本人、家族の意向を踏まえてスタッフ会議で職員全員で話し合い介護計画を作成している。短期目標は3カ月毎に見直し、日々の記録や担当している職員、看護師からの情報を聞き、他の職員からの意見も加え利用者の状況に即したものであるかを検討している。利用者の記録には「サービス計画記録表」を綴り、毎日、目標ごとに実施状況を記録し介護計画に沿ったケアに努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケース記録には、事細かにありのままのやりとりを簡潔に記入し、誰もが情報を共有出来るようにしている。日々のケース記録を中心にカンファレンスを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームでの生活が困難となれば、状態に応じて併設の老人保健施設・デイケア・居宅介護支援事業所などへの紹介等柔軟に支援している。		

医療法人博人会桜グループホーム・1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・2回／年、地域の方との防災訓練の実施。 ・1回／年、地区運動会への参加。 ボランティアの受入は積極的に行い、運営推進会議を通して、地区の身近な情報収集を行い交流のきっかけ作りを図っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族等に主治医の希望を聞き、希望の医療機関を主治医としている。同法人の内科医を希望する家族が多い。介護師より看護師へ必要に応じ情報提供書を作成し、医療との連携が適切に受けられるよう支援している。	本人、家族の希望に沿ったかかりつけ医の診察を受けている。法人の内科医の往診を受けている利用者が多い。整形外科等、専門医療機関の受診は家族が付き添い、依頼があれば同席することもある。必要時看護師が情報提供書の作成や電話連絡等で主治医と連携をとっている。家族からの受診時の内容は報告を受けた職員が引き継ぎノートに記録し、職員間で共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が配置されている。入居者の健康状態・薬の管理・主治医との連携を行い、急変時には即座に対応できるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力医療機関があり、入院時には、サマリーを作成し状態や生活の様子がわかるようにしている。又、早い段階で直接お見舞いに行き、医療ソーシャルワーカーより途中経過の状態を把握し、退院時の状態によってはGHでの生活の継続が困難であれば、家族との相談の上他施設への紹介を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針に従い、全スタッフでどこまで出来るかを話し合いながら見極めている。今後の状態に応じて主治医との連携を基に、家族への受診依頼等を行い随時状態の変化にも対応できるよう取り組んでいる。	契約書に看取りの指針が記載しており、利用者の状況により、主治医や同じ法人の老人保健施設と連携をとりながら本人や家族の意向に沿って支援していくことを契約時から伝えている。緊急時や重度化した際は、家族、主治医との連携のもと、本人にとって良い方向を話し合い、会議や記録で職員全員が共有できるようにしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師との相談の上、適切な処置が取れるよう取り組んでいる。又、AED講習会も全スタッフ参加し対応できるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	2回／年、地域の方との防災訓練の実施。災害時の避難経路を目の届く所へ掲示している。	年2回、昼、夜両方を想定して日中に訓練を実施し、年1回は消防署立ち合いで行い終了後には反省会を開き改善点などを話し合っている。区長や区の消防団等が参加し、事業所内の避難経路の確認や実際に車椅子を押して避難してもらうなど協力を頂いている。マニュアルに沿って職員は具体的に火災や水害時の判断基準に合わせての行動をとり有事に備えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人の生活暦・生活環境を考慮した上での言葉掛けや対応を心掛けている。	個人情報保護や利用者の権利などの内容が運営規定、契約書に記載され、本人家族に契約時伝えられている。利用者ができるだけ自由に生活できるよう自立支援の視点でケアを行ない、実際に利用者の気持ちもよい方向に変化している。呼び方は一人ひとりの利用者に合わせて苗字や名前にさんをつけたり、本人、家族の希望で馴染んだ呼び方にしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に開かれた会話を念頭に、ゆっくり簡単な単語での声掛けを行う、入居者中心の会話を心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活の中で、どのように過ごしたいのか？等の希望を聞き、家族への協力を求めたり、行事へ取り入れるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	協力の理美容室があり、依頼すれば訪問して下さる。外部の理美容室を希望される場合は、家族へ協力をお願いしている。各々の居室に洗面台があり、毎朝鏡に向かって身だしなみを整えたり、お化粧している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	昼食のみ作っている。昼食レクや誕生日会などは、事前に入居者より嗜好調査を行いメニューに取り入れて、食材切りから食器ふきまで入居者と一緒に行っている。	昼食はおかゆのみ厨房で、そのほかは職員が利用者に合わせて食べやすい形態で配慮している。利用者は野菜切り、玉ねぎの皮むきやもやしの根とりなどの下ごしらえや食器の片付けなどそれぞれの役割を担っている。月に1回2ユニット合同での食事会、昼食レクやおやつレク、外食で好みの物を食べる等、食事が楽しみとなるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士による献立表を作成、調理している。又、個々に応じての主食量の調整・摂取量を把握しながら、食事摂取がスムーズに行くよう食事形態の変更するなどの配慮している。		

医療法人博人会桜グループホーム・1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	3回/日、毎食後、個々の状況に応じて介助・声掛けの支援をしています。義歯消毒は毎夕食後実施している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンチェック表を使用し、声掛け・誘導を行い、失敗を軽減する対応を心がけている。夜間のみリハビリパンツを使用したりと、必要に応じて尿取りパット・リハビリパンツの使用を、家族にお願いしている。	入居してから利用者に合わせて丁寧に支援を重ねた結果、リハビリパンツから布パンツに切り替えることができた利用者が多い。転倒が心配される利用者には付き添い出来るだけトイレでの排泄を支援している。夜間必要な利用者がポータブルトイレを使用する等、自立支援に心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を使用し、多目の水分摂取・運動・体操等の自然排便を促している。又、排便の確認を行い、必要に応じた対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	3回/週、の入浴を実施している。本人の希望により可能な限り、毎日の入浴を支援している。又、スタッフの都合で入浴日や時間帯が決められてしまうこともあるが、無理強いせず、その時々気分やタイミングを考慮し気持ちよく入浴できるよう支援している。	本人の希望に沿って週2~3回は入浴できるよう、また1対1でゆっくり話せるよう支援している。重度の利用者も普通の浴槽に入り2人の職員が介助している。同性介助を希望する方には応じており、入浴できない日は足浴や清拭で清潔保持に努めている。季節に合わせて菖蒲湯など入浴を楽しめる工夫をしている。	職員は自立支援の視点できめ細かなケアを行っている。2階ユニットの浴槽には立ち上がりのための手すりがなく、どうしても職員の介助に頼ることになる。今後も利用者の生活機能を最大限活かし、安全な入浴を継続するため、手すりの設置について検討されることを期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活スタイルを尊重し、睡眠の観察を行い安心して過ごせる場を提供している。又、体調や状態に合わせて休息を促すこともある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の情報は、スタッフが誰でもすぐに確認できるように、一覧表を作成。内服薬の変更等も受診記録、申し送り等で徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴を参考に、家事手伝い・散歩・レクリエーションへの参加を支援している。年間を通しての畑作りの支援を実施。作物を育て、収穫の喜びを全員で体験できました。		

医療法人博人会桜グループホーム・1階

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日の日課で屋外散歩を実施している。また希望によって、屋外の日光浴等を実施している。外出は気分転換にもなるので、家族にも協力を依頼し出来るだけ出掛けられる様支援している。GHとしての外出・外食行事を計画・実施している。	利用者の希望を聞きながら買い物などの個別外出や外出レクなど、出来るだけ外出の機会を多く持つようにしている。毎月1回はユニットごとに季節に合わせてドライブや花見、紅葉狩り、薔薇園、おやき村などに出かけており、利用者の生き生きとした表情の写真がフロアに貼られていた。利用者も「次はどこに行く？」ととても楽しみにしていると伺った。毎月来訪するあんしん相談員(介護相談員)や元職員などボランティアの協力も得られている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には家族が管理している。本人の希望に応じ、家族の了解の元、事前に買う物を決め商品選びから支払が出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	遠方の家族への手紙のやり取りを家族協力の基に支援している。電話希望時は、職員に声を掛けて頂き時間帯も考慮し、家族の了解を得て支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用のスペースへ季節感を視覚で楽しめるように植物・飾り物をレイアウトし、西日の当たる窓には植物を植え、日差しを遮るような工夫をし窓の外を眺めながら心地良く過ごせるよう配慮している。	フロアの中央にオープンキッチンがあり家庭的な雰囲気、利用者は食事や会話などゆったりとした時間を過ごしている。玄関にはおしゃれなボードにその日勤務する職員の写真が貼られ紹介されており、利用者、家族等にわかりやすくなっている。利用者が取り組んでいる書道や絵などの作品も飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内では、テレビ前にソファや長椅子を設置しコミュニケーションが取りやすい環境を作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際、相談して制限は無いので個人の好きな物・使い慣れているもの・馴染みの物を持ち込んでいただき、本人が居心地良く過ごせるよう工夫している。	それぞれの居室にはいろいろな野菜の名前がついており、入口には好みの暖簾が掛けてある。ペット、パネルヒーター、物入れが備え付けられ、使い慣れたタンスなどが置かれている。家族の写真や夫の位牌をおいたり、交流している小学生からプレゼントされた手紙などを飾っている利用者もいた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーになっており手すりの設置。トイレは車椅子対応の広さを確保。一人ひとりの身体機能に応じてご家族の方と相談しポータブルトイレを設置したり、安全に且つ自立した生活が送れるよう支援している。		